

合志マンガミュージアム

〈 映像企画の考え方 〉

合志マンガミュージアムは、
普通の図書館などとはぜんぜん違う、
独特の「場所」になっています。

マンガの並べ方、展示方法、etc… そしてなにより閲覧スペースのデザイン！

「マンガを讀んで」

「マンガを楽しみ」

「マンガに没頭できる」

そんな「場所」を作りたかったという気持ちが

ミュージアムの施設そのものから

静かに、強く、伝わってきます。

だから、その場所に込められた「想い」と
施設そのものの「魅力」を真っすぐに伝えられる

映像であるべきだと考えました。

〈 コンセプト / コピー 〉

おとなは、子どもになる。
子どもは、おとなになる。



寝転がって、
無心にマンガを読む、
お父さん



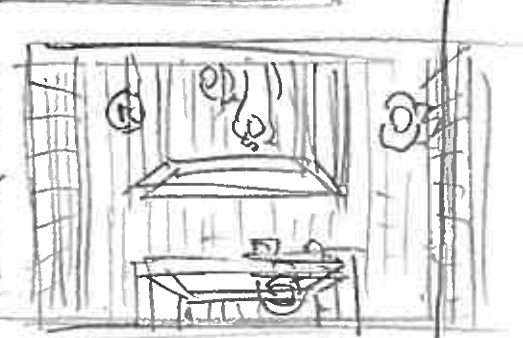
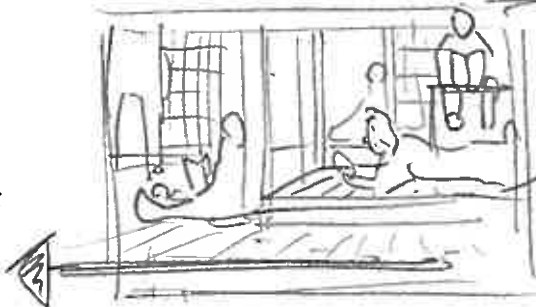
おとなは、子どもになる。

壁に寄りかかって、
真剣な表情でマンガを読む
子ども



子どもは、おとなになる。

俯瞰から（横から）
ドローン撮影による
ミュージアムの風景



読む、観る、学ぶ



合志〈 R15 〉マンガミュージアム

先日、橋本館長から

「実はね、まだまだ蔵書があるんですけども、
ちいさなお子さんから大人まで広く楽しんでいただくための施設としては、
まあ、ちょっと置きにくいマンガもありまして・・・」

というお話を聞きました。
それは実に、もったいない・・・

そこで、ミュージアムの蔵書スペースの一部を使って
〈 R15 エリア 〉を新設します。

15歳以上であれば（身分証などを提示）
入場料に100円程度をプラスすることで
「ちょっと大人の世界」を体験できる場所に、入ることができる。

マンガミュージアムの発信する世界が、
いまよりも広く、深く、拡張します。

すると、まだそこに入れない15歳未満の子どもたちも
いま読んでいるマンガのその先に
「さらに、広く深いマンガの世界」があることを感じて
マンガへの興味と想いをさらに深めていくはず・・・
教育的な見地からも、世の中に「大人の世界」があることを
子どもたちの目から隠すことだけでなく
上手に「大人への階段」を作ってあげることが
とても有意義であると思います。

そのあたりの館長の

「マンガへの深い想いと、情熱」「ミュージアムの魅力と意義」を、
メディアにも上手に伝え、発信していくことで集客につなげていきます。